

奈良県立五條高等学校 令和元年度 第1回学校運営協議会

1 日 時 令和元年5月27日(月) 15時00分～16時55分

2 場 所 奈良県立五條高等学校 大会議室

3 参加者 (委員) 的場真一 米田正人 田中義人 飯田明子 柳澤佳孝 熊代敬三 下村卓
尾崎和弘 上村雅則 中井基雄 (本校校長)
(事務局) 福井邦裕 (全日制教頭) 山内雅雄 (全日制教頭) 東達也 (定時制教頭)
稲葉功 (分校教頭) 芝野恵一 (事務長) 田中鈴子 (全日制総務部長)
高橋知子 (全日制教務副部長) 奥村洋 (全日制生徒指導部長)
吉村典久 (全日制進路指導部長) 澤一彦 (全日制広報企画部長)
中上益教 (定時制教務副部長) 辻本和正 (定時制生徒指導部長)
川西哲志 (分校生徒指導部長)

4 内 容

(1) 校長あいさつ

(2) 委員紹介

(3) 会長あいさつ

(4) 議案

○ 本年度学校運営に関する基本的な方針と重点目標(「地域と共にある学校づくり」に関する取組を含む)について事務局(全日制教頭、定時制教頭、分校教頭)から説明。

○ 質疑応答等

(意見)

まなびの森コースについて、市内中学生にアンケートをするなど現状を打破してほしい。

(質問)

少子化で他校との競争が激しいが、市内の中学生はどこの高校に進学するのか。

(意見)

進学先としては、五條市とその近隣で8～9割を占める。あとは私学。大阪まで通学する生徒は少ないと思う。

(回答)

まずは保護者が安心して通わすことができる学校を目指している。そのために生徒指導が基本だと考えている。そして、7限授業や進学対策、部活動、施設面で様々な生徒に幅広く対応し、地域とも連携していく中で、地域からも来てもらえるような学校にしていきたい。

(意見)

突き抜けたようなものがないと生徒に選んでももらえない。賀名生分校はメディアに取り上げられ、全国にアピールできている。全日制もどんな職業が残るかわからない時代にしっかり対応してほしい。また、分校の生徒たちが五條市に残り、活性化につながることを期待している。

(意見・質問)

賀名生分校に地元の生徒も増え、ありがたい。実習受け入れ先として、指導する立場として、生徒たちともしっかり接していかなければならないと感じている。現在、企業は人材確保が大変で、高卒採用も視野に入れているが、全日制の就職する生徒の割合はどのくらいか。また、定時制がなくなるが、そのよさを取り込んだものを作れないか。

(回答)

昨年272名卒業し、うち企業に28名、公務員が9名、計37名が就職した。ここ3年は商業科も進学希望者が多く、就職希望者は10名程度である。

(意見)

まなびの森コースについて、存続も含めて再検討する必要がある。

(意見)

県中学生の進路希望の動向を見ると、時代が変わったことを感じる。愛校心というより、特に五條のような産業のあまりないところでは、保護者は就職のことを優先させる。賀名生分校が取り上げられたニュースでの生徒の言葉に「人のために働きたい、五條に恩返しをしたい」とあったが、とても心に響く。まなびの森コースも時代のニーズにあったアピールを保護者に

する必要がある。例えば、これからの AI の時代に理系のニーズが増えることが考えられる。私学は生徒に卒業後のことを明確に前倒して伝えている。ビジョンをもち、それを心に響く言葉で伝え、親の負担を考えて遠くよりはこの五條高校で学ぶという生徒を増やせるかが大切だと考える。

(意見)

市内小中学校でもどんな特色を持つ学校づくりをするかが課題となっている。新聞報道で普通科の見直しが進んでいるとも聞く。五條高校でも、まなびの森コースを含めた普通科をどうしていくかが課題である。また、外から生徒を呼び込まないと活性化はない。その点で、スクールバスは強みとなる。福神駅以外のルートを検討してはどうか。さらに、地域とつながる開かれた学校づくりをすすめ、人工芝など恵まれた施設とそこに学ぶ人の魅力を伝えてほしい。賀名生分校は地域とのつながりや PR も成功し、このまま生徒数が増えると活気のある学校となることが期待できる。農業はこれからもなくなっていく仕事ではなく、携わる人を育てる必要がある。これからはさらに農業の魅力をプラスアルファで伝えてほしい。

(意見)

賀名生分校がテレビでもうまく紹介されているが、元は「内から外へ」という発想の転換があったからだと思う。それが今の結果につながっている。全日制も新しい取り組みが必要ではないか。まなびの森コースのよさが伝わりにくい。地域とのつながりもうまく利用すればよいのではないか。若い人が地域から出て行き、戻ってこない現状があるが、地域のよさは自然や農業であり、小中高でそのよさを学ぶ機会があればよい。賀名生分校はプロファーマーから学び、定時制はインターンシップをしている。全日制も五條の自然にふれる取組をしてみてもどうか。また、校訓と目指す生徒像とのつながりはどうなのか。昔からの土台となるものを大切にしてほしい。

(意見)

子どもが3年間お世話になった。親としては、1、2年生から個別指導で、進路についていろんな視野をもたせてもらえればありがたい。部活動ばかりしていて、卒業してから気付くことも多くあった。少子化は大きな問題。土地柄地元から来てもらうのがよいが、スクールバスは便利であり、他のルートもあればよいと思う。賀名生分校の取組は五條市だからできること。自分も吉野町で林業に携わっているが、地元の子が林業を知る機会がなく、残らないのでうらやましい。全日制も負けずに魅力ある学校づくりをすすめてほしい。

(質問)

全教室にエアコンは設置されているか。洋式トイレは増えていくか。

(回答)

本校では、育友会の御協力をいただき、早くから全教室にエアコンを設置している。洋式トイレに関しては今後全県でエアコン設置が終われば、順次要望を出していく。

(意見)

教員自身が「何のために勉強するのか」「生徒が仕事に就くのに何が必要なのか」という問いに正確に答えられるかが問われている。それができる教員がどれだけいるだろうかという疑問があり、教育の見直しが必要ではないかと感じている。農家の方は農業に就きたい生徒の疑問にほぼ答えることができる。同じことが教員にも求められているのではないか。また、企業などで実際に働いている人から話を聞く機会も必要である。生徒はそういった話を素直に受け入れられる。

(意見)

今求められているのは資格であり、特に理系分野の資格が求められている。以前は無名であっても、ある分野に特化して実績を上げている工業大学もある。理系は資格の宝庫であり、就職にも有利である。また、「人の役に立つ仕事」という視点も大切である。そういったことが、まなびの森コースに生かせないか。賀名生分校で、生徒が「自分は農業をするためにここへ来た」といっている状況を、まなびの森コースでも作り出せればと思う。中学校側からするともっと高校からの情報が欲しい。そうすれば保護者にも自信をもって説明できる。

○本年度学校運営に関する基本的な方針と重点目標について、拍手により承認。

(5) その他

○ 本年度の予定について

6月21日(金)	第1回全日制部会開催
7月16日(火)	第1回賀名生分校部会開催
9月18日(水)	第1回定時制部会開催
10月17日(木)	第2回全日制部会開催
12月13日(金)	第2回定時制部会開催
12月17日(火)	第2回賀名生分校部会開催
3月3日(火)	第2回学校運営協議会開催

○ 学校評価について

今後のスケジュールとして、生徒、保護者、教員に対するアンケート結果をうけて学年末の評価を行ったものを、3月の第2回学校運営協議会において報告し、協議する予定。

(8) 校長あいさつ

長時間ありがとうございました。昨日の同窓会総会で、卒業生で「カリスマ添乗員」として有名な、日本旅行にお勤めの平田進也さんに講演していただきました。試験中ということもあり、多くの生徒には聞かせることはできなかったのですが、迫力のある語り口で、参加した生徒にとっては社会人の生の声を聞く良い機会となりました。またこのような機会を設けたいというのが実感です。

まなびの森コースについては、市内の中学校から残してほしいとの要望を受けています。また、同窓会の諸先輩方からも、進学における期待の高さを感じています。そうした中で、昨年度にはまなびの森コースのプロジェクトチームを立ち上げ、会議を重ね、教育課程も変更しました。本年度からはコース長も配置し、今後の方向性を現在検討しているところです。

スクールバスは、昨年約350名の利用であったのが約400名に増えています。スクールバスのルートも増やすことを検討していますが、超えなければいけないハードルが高く、しばらくお待ちください。

定時制については閉課程が決まりましたが、残りの9名の生徒を大切に送り出したいと考えております。

賀名生分校はメディアでも取り上げられておりますが、今後、五條市と連携し、卒業後の進路保障を進める取組を考えていきたいと思っています。

今回いただいたご意見をこれからの学校運営に生かして参ります。この運営協議会だけでなく、普段からアドバイスをいただければと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



協議会の様子